

KEIO SFC REVIEW

No. 80
Summer 2025

巻末付録 パーパークラフト2種

特集
紙

連載

のぞき見ルーティン — 森 さち子
新任教員プロフィール

When I was young — 宮川 祥子



KEIO SFC REVIEW

TABLE OF CONTENTS

No. **80**

特集

04 紙

06 紙を折る

三谷 純（環境情報学部特別招聘教授）

川島 英之（環境情報学部教授）

10 紙を考える

加藤 文俊（環境情報学部教授）

和田 直樹（環境情報学部准教授）

14 紙で残す

保坂 睦（湘南藤沢メディアセンター 事務長）

筒井 利子（湘南藤沢メディアセンター パブリックサービス担当）

原田 奈都子（湘南藤沢メディアセンター テクニカルサービス担当）

18 紙を綴じる

寺内 玲（2020年環境情報学部卒業 / デザイン事務所 studio TRUE 代表）

20 紙から作る

鳴川 肇（環境情報学部准教授）

22 編集部がトツゲキ！

連載

24 のぞき見ルーティン

No. 2 森 さち子（総合政策学部教授）

26 新任教員プロフィール

30 When I was young

No. 56 宮川 祥子（看護医療学部准教授）

34 編集後記

巻末付録

35 付録1 吉村パターン from 「紙を折る」

付録2 オーサグラフ世界地図 from 「紙から作る」



p. 6

紙を折る

三谷 純

(環境情報学部特別招聘教授)

川島 英之

(環境情報学部教授)

p. 10

紙を考える

加藤 文俊

(環境情報学部教授)

和田 直樹

(環境情報学部准教授)

p. 14

紙で残す

保坂 睦

(湘南藤沢メディアセンター)

事務長)

筒井 利子

(湘南藤沢メディアセンター)

パブリックサービス担当)

原田 奈都子

(湘南藤沢メディアセンター)

テクニカルサービス担当)

p. 18

紙を綴じる

寺内 玲

(2020 年環境情報学部卒業 /

デザイン事務所 studio TRUE 代表)

p. 20

紙から作る

鳴川 肇

(環境情報学部准教授)

p. 22

編集部がトツゲキ！

$$65W \times 23L = 1495$$

p. 35

卷末付録

付録 1 吉村パターン from 「紙を折る」

付録2 オーサグラフ世界地図 from「紙から作る」

$$25W \times 5L = 125$$

誰 もがノートに書き、本を読み、折り紙で遊んだ記憶があるだろう。しかし社会全体では、デジタルへの移行が着実に進んでいる。SFもまた、設立当初からデジタルを重視してきた場所だ。私たちの生活と紙は切り離されてつつあるのだろうか？ いや、今でも紙は、私たちのそばに息づいている。紙の可能性と魅力を見つめ直すため、SFで紙と向き合い続けている方々のお話に耳を傾けたい。

紙を

折る

●折り紙で科学する。SFCの人氣授業の実態

——「折紙の科学（DS2）」の授業はどのように行われていますか。

三谷純先生（以下、三谷）

授業では、理論と、実際に紙を折る実践の両方を組み合わせています。退屈しないようにするという目的もありますが、実際に紙を折ることが大事だという思いから、授業の中で十分間ほど手を動かす時間を設けています。授業の内容を切り替える時に、「それでは、気分転換に折りましょう」という形で、実践の方に移ります。

ただ、理論と全く関係のないものを折るわけではありません。例えば、「ミウラ折り」（写真①）や「吉村パターン」（写真②）、「風船の基本形のタイリング」（写真③）などを取り上げています。これらのパターンは、工学的にも様々な応用されています。それらを履修者に実際に折ってもらうわけです。

——開講された経緯を教えてください。

川島英之先生（以下、川島）

二〇二一年の十月頃、加茂具樹先生（総合政策学部長）から、「データサイエンスは重要な学問なの

このような機会をもらえたのは、とても貴重なことだと思っています。

●紙という素材の魅力

——数学を学ぶ手法として、フィジカルである紙を使うことの難しさはどのような点にありますか。

三谷

数学の理論に沿って考えればできるはずなのに、実際に紙を折ってみると、紙の厚さなどの関係で実現できないことがあります。理論と実物の間には、どうしてもギャップが生じてしまいます。けれども、逆にそこが面白い。理論的にはできるはずなのに、実際はできない。反対に、理論的にはできないはずなのに、実際はなぜかできてしまうこともある。

折紙の科学（DS2）

三谷 純

×

川島 英之

私たちにとって身近な素材である紙には、無限の可能性が秘められている。紙には創造性や新たな発見が満ちていることに気付かせてくれるのが折り紙だ。SFCで大人気のデータサイエンス科目「折紙の科学（DS2）」（注）にて教鞭を執られている二人の先生、筑波大学の三谷純先生と環境情報学部教授の川島英之先生にお話を伺った。

で、あまり数学が好きではないSFCの学生でも、数学に興味を持てるような科目を作ってほしい」というお願いがありました。まず、どのような方に授業をやっていただくのが良いかと考えたのです。いろいろ悩んだ末に、私が以前勤めていた筑波大学の先生が適任だろうと思いました。知り合いの筑波大学の方々に、最もクリエイティブな先生は誰だろうかと尋ねてみると、多くの方が三谷さんのお名前を挙げました。そこで、こ

る。このような食い違いがとても興味深いですね。

——具体的には、どのようなことが起きるのでしょうか。

三谷

一番分かりやすい例を挙げましょう。あくまでも理論的な面から考えれば、厚さのない紙は何回でも折れるはずです。しかし、物理的な紙は折り目にどんな歪みも溜まっていき、コピー用紙ではおよそ七回以上は折ることができません。逆に、理論的には作れないはずのものが、折り目の微妙なしわによってごまかされて作れてしまうこともある。このようなことは、やはり実際に作ってみて初めて気付くことです。

の授業のことについて三谷さんに打診をしたら、最初は「今のトレンドは機械学習だから、そちらのテーマを扱う方が良いのではないかと躊躇されていました。しかし、最も創造的な方に来ていただきたいと考え、無理をお願いして、現在の形での開講に至りました。

——「創造的」という言葉がキーワードだったのですか。

川島

そうです。三谷先生は普

川島 私は理論が正しいかどうかを確かめる際、いつもコンピュータを使っています。でも、三谷さんはずっと実物を折って確認していますよね。

三谷

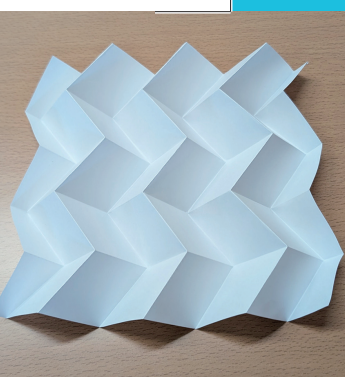
私は物を作るのが好きなんです。デジタルファブリケーションの研究も少しいたことがあるので、自分の研究室には3Dプリンタやレーザーカッターなどもあります。限られたスペースや素材で、果たしてどのようなものができるだろうと考えるのも、また面白いですね。

——三谷先生にとって、紙の魅力は何でしょうか。

三谷

紙はやはり一番身近なも

巻末付録「吉村パターン」は36ページ！



↑写真①



↑写真②

材の中でできることも魅力の一つです。ただ、折り紙で作った作品は所詮紙だという面もあります。折り紙は、他の彫刻や彫金と比べると、美術作品として残らず、いまひとつ評価されていません。紙という素材が身近過ぎるからかもしれないですね。折り紙のコミュニケーションの人のモチベーションを保つためにも、作ったものは、やはり適切に評価されてほしいです。私がその末端の人間として折り紙の地位を少しでも上げることができれば、興味を持ってくれる人も増えるのではないかと思います。

「折紙の科学(DS2)」の特徴はどこにありますか。

川島 この授業は学生からの反応がとても良く、楽しんで参加してくださっているようです。折り紙というのは、やはり親近感を持てるテーマですからね。だから、興味を持って授業に取り組むことができるのではないかと思います。

●これからの発展

—SFCには、データサイエンスの授業はたくさんありますが

だきたいと思っています。また、やはり、この授業で学んだことが他のところに活かされた、という卒業生が出てきたら嬉しいですね。

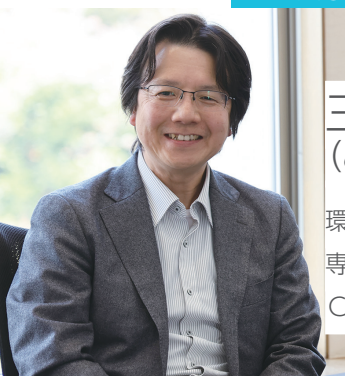
—この授業で身に付けた内容が研究に繋がるようなこともあるのでしょうか。

川島 嬉しいことに、あるそうです。受講生の中には、折り紙を使ったデザインに興味を持っている方もかなりいらっしゃるようです。そのような学生は、デザイン系の研究に発展させているそうです。

三谷 私が所属している日本応用数学会には、折り紙を工学的



↑写真③



三谷 純
(みたに・じゅん)

環境情報学部特別招聘教授。
専門は、コンピュータ・グラフィックス、CAD、幾何モデリング、折り紙工学。



川島 英之
(かわしま・ひでゆき)

環境情報学部教授。
専門は、コンピュータサイエンス。



川島 DS2は、一つの応用的な分野に特化したことをやりましょう、というのを趣旨にしています。その意味では目的に合っていますよね。しかも、驚くべきことに数学の講義としても成り立っています。

—「折紙の科学(DS2)」は、今後どのように発展していくのでしょうか。

川島 現在の様子から考えると、受講者数はさらに増えるでしょうね。どこまで増えるかは見当が付きませんが(笑)。

三谷 慶應義塾大学の先生方や学生みなさんが価値を認めてくれるのであれば、継続させていた

たら嬉しいです。

(構成・野畑六花)

注・データサイエンス科目はSFCの科目群の一つ。「データサイエンス2」(DS2)では、DS1が履修済みであることを前提に、研究会で研究を行う際に必要となる応用的なスキルを身に付ける。

紙を

考える

●それぞれの「紙の使い方」
研究会では、どのような場面で紙を使っていますか。

加藤文俊先生（以下、加藤）

毎学期のグループワークの成果は、印刷、製本して冊子の形にまとめて仕上げています。それから、研究会の学生にはスケッチブックを配って、自由にアイデアを書いてもらっています。パソコンの画面上だと、一直線上にものを考えたり、箇条書きで様々な要素を同列に考えたりするようになってしまします。それよりも、時間軸や空間軸を意識して文字や図を配置する方がトレーニング

ングとしてよいだろうなと思い、始めました。

SFCに着任した時より、僕が使う紙の量は減っていますが、それでもたくさん使っていますね。紙で残していくことが、埋もれずに残る一番の方法と考えています。それに、もともと僕が紙好きだということも大きな理由です。

和田直樹先生（以下、和田）

私の研究会では、周知・啓発の目的でポスターやチラシを作っています。教室には省エネ喚起のポスターを貼りました。昨年は、一人で教室のエアコンを使うのではなく、みんなでメディアセンター

体験に基づいて言うと、そういうやり方にやっぱり良さを感じます。

情報を受け取る時の適切なスピードは一人一人違いますよね。例えば、PDFをさっと読むだけで頭に入る人もいれば、手を動かしてメモを取ったりまとめたりしながら少しずつ理解を深める人もいます。自分にはどんな方法が合っているのか、選べるようになると思いますよね。

ただ、資料を事前に印刷して配るためには、教員側の早めの準備が必要で、その点が問題になることもあります。

和田

デジタルの資料を印刷せずにアップロードするだけでよかったら、授業の直前に資料を一

加藤 文俊
×
和田 直樹

紙はこれから、どこへ向かうのか。その役割や使い方は時代と共に変わりつつある。これからの紙はどのようなものになり、私たちはどう向き合っていくべきなのか。研究会や授業で積極的に紙を活用している加藤文俊先生と、環境省で環境行政に携わってきた和田直樹先生に、紙の魅力と未来についてお話を伺った。

に集まってクールシェアをしようというキャンペーンを実施しました。その時にもチラシを配りましたね。基本的には、情報伝達の手段として使っています。

●紙だからこそ伝わるもの

紙の魅力や特長を教えてください。

和田

私はこれまで、情報を伝達するために紙でなければならぬ理由は、もうほばないのではない理由

ページ足すこともできますね。それはデジタルのスピード感ならではの良さだと思います。紙にもデジタルにもそれぞれの特性がある。

●紙の読み方、デジタルの読み方

和田

本の話に戻ると、私も紙で読みたいのです。紙の本は、平面の二次元の情報ですが、読んでいる時にはもっと立体的というか、奥行きのある感覚を持つことがあります。例えば、前のページに戻りたいと思った時、紙なら感覚的にパッとめくれるけれど、PDFだとその「戻る」動作がうまくできません。ただ、世代的に自分が紙の本を読み慣れているからそう感じるのかもしれないですね。デ

逆に、紙の方が不便だと感じる人が出てきてもおかしくありません。

和田

もうAIの時代ですから、わざわざページを遡らなくても、AIに「これってどこに書いてある？」と聞けば、すぐに該当の内容を教えてくれるようになるかもしれません。我々の世代がいるうちは紙はなくならないと感じていますが、生まれた時からデジタルだけで育った人ばかりになった時は、それも変わるのかな。環境の分野では行動変容について考



えることがよくありますが、最後は世代が変わらないと起きない変化というものもあると感じる時があります。紙からデジタルへの移行も、最後の一押しはそこかもしれません。

加藤 ウェブだと、既にページという概念がなくなりかけています。究極的に「ページ」とか「綴じる」とかという言葉は消えていくのかもしれない。

その一方、本は売れないという話があります。先ほど言ったように、買うけど読まない人もいますよね。読まねずに処分されて、運命を終えていく本がたくさんあるはずですよ。

和田 食品やファッションの世

界では、売れ残って使われない「ロス」が話題になりますけど、読まねずに捨てられる本のことはあまり議論されていませんね。

加藤 出版業界には返本できる流通システムがあるから、書店にたくさんの本が並んでしまうのでしょうか。最近では、その都度印刷が可能なおנדemand出版(注2)という選択肢もありますが、そうすると一冊の値段は上がってしまいます。だから、まだまだ課題がありそうです。

和田 食品やファッションには、賞味期限やトレンドがありますよね。でも、紙の本が廃れるかというと、必ずしもそうではありません。そのような点も違って

いいのではないのでしょうか。

加藤 紙は貴重で高価なものになっていくかもしれないですね。東京五輪の選手村のベッドや、坂茂さん(元環境情報学部教授)が作った被災地の避難所のパーティションは紙製だったので、話題になりました。紙の使い方や加工の仕方はいろいろなものに応用できます。ただプリントされた紙だけが紙であるわけではありません。紙の使用量が減った分、他の素材の使用が増えていきます。僕たちは普段、紙やプラスチックなど様々な素材を使っていますが、それぞれの素材の関係性や背景までは、あまり意識していないかもしれません。自分自身への問いかけとしても、紙が手元に届くま

て難しいですね。

●紙の未来と変わりゆく価値
——これからの社会で、紙にはどのような役割があると考えますか。

和田 紙は、循環する資源の象徴的な存在です。最近はそのイメージが崩れかけているかもしれませんが、それでも、現在も古紙回収などを通して、紙は有価物として回収され、リサイクルされています。ちゃんと集めれば売れる、そのくらい価値のある存在ですね。

古紙は新しい紙となって、紙として循環するし、次のステップとして、紙は植物性の炭素でできているため、気候変動の観点から炭

での道のりを知ることが大切だと感じています。

(構成…吉松野乃子)

注1 QRコード…株式会社デンソーウェブの登録商標である。

素の循環として見ていくこともできると思います。

これからは紙がなくなることはないと思いますが、量が減って価格は上がるでしょう。生産工程のサステナブル化や、使い方の面からの循環、焼却場での二酸化炭素の回収・固定化など、様々な話が進められています。紙を使えば使うほど環境が良くなる世界になったら面白いですね。

加藤 昔はちり紙交換のトラックが町を走っていました。近頃は、そういった業者を見かけることが少なくなりましたね。

和田 現在は、多くの場合、地方自治体が資源ごみとして古紙を回収しますが、資源ごみ置き場に

注2 オンデマンド印刷…必要な時に、必要な数だけ印刷するシステム。従来の大量印刷(オフセット印刷)とは異なり、印刷の元になる板を作らず、デジタルデータから直接印刷する。

加藤 文俊 (かとう・ふみとし)

環境情報学部教授。

専門は、コミュニケーション論、メディア論、定性的調査法。

和田 直樹 (わだ・なおき)

環境情報学部准教授。

専門は、環境政策、環境システム分析。

紙で

残す

●メディアセンターの仕事
——メディアセンターでは、どのような業務を担当されていますか。

クヤード的な業務です。電子・紙を問わず、図書館で受け入れる資料を選定・購入・整理して利用可能な状態にしています。

筒井利子さん（以下、筒井）

私が担当する閲覧業務は、図書館業務の中でも利用者に直接対応する仕事のことです。具体的には、利用者の受付対応や入退館管理、開館スケジュールの調整をしています。

原田奈都子さん（以下、原田）

テクニカルサービスを担当しております。テクニカルサービスとは、図書館を裏側から支えるパツ

保坂睦さん（以下、保坂）

事務長を務めております。事務長は、メディアセンター全体の事務運営を統括する立場です。現場は信頼できるスタッフにお任せして、メディアセンターの運用方針を決定する仕事をしています。

——時代の進歩に伴って、業務内容に変化はありましたか。

筒井

SFCが開設されたのは

た。なので、現地に行ってカードを引かないと所蔵状況が分からなかったのです。

原田

私が入職した二〇〇四年には既にKOSMOSが導入されていて、基本的にオンラインでの作業ができるようになっていました。ただ、当時のKOSMOSには資料の取り寄せ機能がなく、利用者に記入してもらったフォームの情報を基に、人力で取り寄せ処理を行っていました。今よりもさらに時間と手間が必要な時期でしたね。

保坂

今と昔で大きく異なる点は、電子化の進展によって、利用者が自分で図書館内の資料のみならず、いろいろな情報を検索でき

るようになったことです。昔は所蔵資料の場所も探し方も分からず、皆さんがレファレンスデスク（注2）に相談に来ていました。でも今は、ある程度まで自分で検索して解決できるようになりました。その代わりに、「こんな資料やこんなデータ、本当に存在するんでしょうか」というような難しい質問だけが寄せられるようになりました（笑）。

メディアセンターとしては今、図書館を研究や学習にいか効率よく役立ててもらおうかという視点で、情報提供やサポートに注力しています。

●紙の利点と欠点

——皆さんから見ると、紙の本のメリットは何ですか。

湘南藤沢メディアセンター

保坂 睦
筒井 利子
原田 奈都子

本や雑誌、新聞などの紙の資料を取り扱い、保管することに長けたメディアセンター。その一方で、近年は社会全体で資料のデジタル化が促進されている。電子資料の比重が大きくなりつつある今、最前線の現場で働いている人々が考える紙とは、どのような存在だろうか。湘南藤沢メディアセンターで働く三名の職員の方々にお話を伺った。

一九九〇年です。当時はまだメディアセンターの建物がなく、本は体育館に置いてありました。その後、現在の建物が完成して、体育館から引っ越したのが私が入職する約一年前でした。

当時は、資料のほぼ全てが紙の本でした。海外のデータベースは今と同様にオンラインで検索していましたが、接続時間やヒット件数に応じて課金される仕組みでした。図書館員が利用者からキーワードを聞き、検索式を立てて、

筒井 停電になっても地震が起きても、どこでも読めることです。

原田

装丁や紙の匂い、感触など五感を通して味わえることだと思います。

保坂

紙の本は物質として存在しているの、一度手に入れたら自分のものとして所有できる特別さがあります。手触りやデザインなども含めて、本そのものを楽しむことができます。

筒井

貸し借りができるのも紙の良さです。要らなくなったら誰かに譲ることも、逆に代々受け継ぐことも可能です。例えば、仮に慶應義塾がなくなったとしても、紙の本なら何百年後も残る可能性

急いで検索する。そうしてヒットした結果が二件だけで、しかも費用が二万円になることもありました。代金も利用者が負担してしました。今は誰でも自由に検索できて、データベースも数えきれないほどあり、便利になりましたね。

当時は、KOSMOS（注1）が導入される前でした。SFCは最初からオンラインの蔵書検索システムを導入していましたが、三田など他の地区は、全て紙のカード目録（写真）で管理されていまし

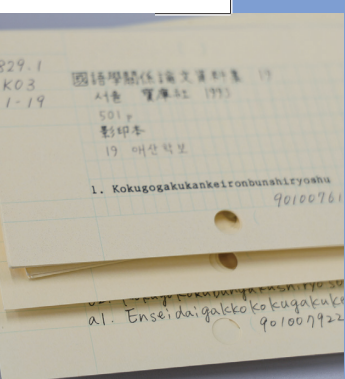
がある。それは、モノとして存在することの強みです。

原田

紙の本は手元に残りますが、電子資料は媒体が変わってしまいます。例えば電子ブックの提供元が廃業した場合、アクセス権を購入した資料でも読めなくなる可能性もあります。永久に所有できるわけではありません。一度買えば、手放さない限り自分のものになる紙の本とは、この点が大きく異なります。

保坂

電子資料はデータがあっても、読むためのインターフェースがなければ利用できません。過去に作られたソフトやフォーマットのものは、現在の環境では読めないケースも存在します。そのよ



↑写真



うな場合、新しい媒体に合わせてデータを整える必要があります。その作業にはお金も人手も掛かります。そういった理由から、図書館の収集対象から外れるコンテンツも出てきています。

——デメリットとしては、どうでしょう。

筒井 紙の資料はどうしても、保管に多くのスペースを必要とします。また図書館では、貸出による劣化も避けられません。コーヒをこぼしたり、犬に齧られたり、なくしたり、借りたまま卒業して返却しなかったりするケースもありますので、管理が大変です。

原田 レファレンス資料の場合、

追加されています。何にせよ、資料はただ単にあるだけでは活用されません。それをどう発見してもらい、使ってもらうかという視点で、業務に取り組んでいく必要があります。

——最後に、利用者と読者へのメッセージをお願いします。

原田 本の購入やデータベースの契約には、皆さんの学費をはじめ、様々なところから多くの費用が掛けられています。一度も図書館やデータベース、電子ジャーナルを利用しないのは非常にもったいないことです。ぜひ在学中に、紙の資料も電子資料も積極的に活用していただけたらと思います。

合、電子資料のように全文検索ができません。探す時には目次を頼りに通覧するしかない点が不便ですね。

保坂 本によっては大きくて重く、持ち運びが面倒な場合もあります。モノとして存在することは、時と状況により、メリットにもデメリットにもなりますね。

紙の本に様々なメリットがある一方で、電子資料にも時間と場所を問わずアクセスできるメリットがあります。両方のバランスをどう維持するかは、日々悩むところです。

筒井 電子資料は文字を拡大できるから、紙よりも読みやすいです。視力が悪い人には、電子の方

筒井 新型コロナウイルスの流行前と比べると、現在の入館者数は六割ほどに留まっています。SFCのメディアセンターは、日吉や三田に比べても閲覧機が広く、静かな席からグループで話せる場所まで、多彩なエリアがあります。皆さん、ぜひお越しください。

保坂 メディアセンターは、学習、研究、学術の入口だと考えています。学生の皆さんには、必要な資料を探し、きちんと読み、正しく利用するというアカデミックな訓練を受けてほしいです。それは今後の人生の糧にもなりますし、本を楽しんで読むことはもちろん、楽しみ以上に深い世界も広がっているということも知ってほしい。そして、社会に出て

が使いやすいかもしれません。

原田 電子の場合、読み上げもできますからね。視覚障害のある方など、紙だと読めないケースも一定数あるので、資料を電子化してほしいという要望も寄せられています。逆にデザイン系の学生さんには、電子では本来の色が正確に表示されないから紙の資料が欲しい、という方もいらっしゃいます。

●紙と電子の間で

——今後、メディアセンターの資料はどのように変化していくでしょうか。

原田 洋書については既に電子資料での購入を優先しています。

からも学び続ける姿勢を持ち続けてください。

(構成・藤井美来)

注1 KOSMOS：慶應義塾大学蔵書検索システム。全キャンパスのメ

ディアセンター蔵書、電子資料の他、早稲田大学の蔵書も検索できる。

注2 レファレンスデスク・レファレンスサービスの窓口。資料の探し方やメディアセンターの利用について相談することができます。

後は和書の電子化が進めば、資料の取扱い量に変化が生じると思えます。全体としては紙の量は減って、電子が増えていく方向になるでしょうね。特に洋雑誌は、コロナ禍やウクライナ情勢の影響で販路が不安定になり、紙の形では日本に売ってくれないものも出てきています。電子であれば対応できることが多いので、ますます電子化は進んでいくでしょう。

保坂 それでも、紙でしか刊行されない資料は残り続けるでしょうし、全てが電子化されているわけではないので、今までの資料も捨てられないものが多いです。そのため、メディアセンターでは、紙の本を保存する作業を継続しつつ、電子の資料を管理する仕事

原田 奈都子
(はらだ・なつこ)
湘南藤沢メディアセンター
テクニカルサービス担当

保坂 睦
(ほさか・むつみ)
湘南藤沢メディアセンター 事務長

筒井 利子
(つつい・としこ)
湘南藤沢メディアセンター
パブリックサービス担当

紙を

綴じる

寺内 玲

SBC実践（出版）

ZINEと呼ばれる、自主出版物の制作に取り組む「SBC実践（出版）」という科目が2024年度秋学期に開講された。ペーパーレス化が進む今、なぜ紙のZINEを取り扱う科目が新たに開講されたのだろうか。環境情報学部の卒業生で、「SBC実践（出版）」の担当教員を務める寺内玲先生にお話を伺った。

● 作る一歩を踏み出す
——「SBC実践（出版）」が開講された経緯を教えてください。

私は二〇一六年に環境情報学部に入學して、一年次からSBC合同研究会（注）の活動に参加していました。その頃は、SBC（スチューデント・ビルド・キャンパス）のプロジェクトが始まったばかりで、建物の設計、運用方法の検討、インテリアデザイン、広報活動など、多岐に渡る取り組みがありました。

私が卒業した二〇二〇年にはベータヴィレッジの全ての滞在棟が竣工し、コロナ禍を経て学生に

するために、内容が変更されることも多いようです。

その一方で、ZINEは、好きな人と一緒に作ることができて、書きたいことを書いて、好きな場所で売ることが出来ます。また、部数、売り方、値段がコントロール可能です。商業出版では、少なくとも数千部を発行することが一般的ですが、ZINEの場合は、極端な例では一部だけ制作することもあります。少ない部数であれば、印刷や製本にもこだわられます。例えば、一ページずつ違う紙を選んだり、自分で調合したオリジナルインキを使って印刷したりすることが可能です。自分の手で印刷したり紙を綴じたり、自分で出店や販売をしたりすると、以前は自分が介入する余地はないと思っていた出版のシステムを、自分の身体で理解することもできます。この

利用されるようになりました。そして、今から二年前、松川昌平先生（環境情報学部准教授）と話していた中で、「SBCの活動をアーカイブする本を作りたい」というアイデアが出たのです。卒業生である私が本を作るという選択肢もありました。しかし私は、「作り方を作る」というSBCの活動理念を引き継ぎ、今の学生と一緒にアーカイブに取り組みたいと考えました。そして、二〇二四年度秋学期に、加藤文俊先生（環境情報学部教授）と松川先生と私が担当教員となって、「SBC実践（出版）」を開講することになりました。

のような体験は、ZINEならではのものです。

● 紙のアーカイブが人を繋ぐ
——SBC合同研究会の活動が記録された「SBCイヤーブック」（二〇一六年・二〇一九年）は、なぜデジタルではなく紙の本として発行されたのでしょうか。

「SBCイヤーブック」は、当時のSBC合同研究会担当教員の「出版物は文化をつくる」という言葉から始まったもので、私は二〇一六年に第一号の編集長を務めました。SBCについては、ウェブサイトで情報発信をしていましたが、紙の冊子も制作することになりました。ウェブサイトは維持コストが掛かりますし、動画投稿サイトはサービス終了のリスクがあります。長期的なアーカイブを

考えると、どちらにも懸念があったのです。

——授業はどのように進められましたか。

授業の目標にしたのは、現在の学生がSBCをどのように捉えているのかを、学生自身の視点から記録として残すということでした。まず中間成果物としてSBCのアーカイブZINEの制作をグループワークで取り組んでもらいました。そして最終成果物は、「紙を綴じてZINEを作ってください」という最低限の制約のみを設けて、個人で好きな内容のZINEを制作してもらいました。フォーマットや内容を窮屈に制限すると、その人の抱いている思いがう

二〇一六年のイヤーブックは、二〇一七年の新入生に配布されました。その時に感じたのは、紙の本は偶発的な出会いを生み出すということです。手に入れてすぐにじっくり読まなくても、いつかまた手に取った時に何かのきっかけになるかもしれません。そのようなきっかけを生み出せるのも、紙の本ならではのことだと思っています。

（構成・藤田叶子）

注 SBC（スチューデントビルドキャンパス）とは、未来創造塾イースト地区と呼ばれるキャンパスの敷地に、学生と教員、卒業生が主体となって滞在型施設を建て、新しいキャンパスづくりに取り組んでいるプロジェクト。二〇一六年に

まく作品に表れない場合があります。形式にこだわると、「作る」という一歩を踏み出してほしいと思っています。

● ZINEだからこそできる出版の形
——ZINEと、出版社から発行される従来の出版物の違いはどこにありますか。

編集の方法、製本の方法、流通経路など、そのほとんどの工程が大きく異なります。出版社は通常、市場調査をして、たくさん売れると判断した企画しか採用しない傾向にあります。また、売れやすく

は複数の教員が参画する合同研究会が設立されて、活動が本格化した。建築物の完成後、合同研究会は二〇二〇年に解散したが、現在もSBCの活動は続いており、「SBC入門」や「SBC実践」といった科目が開講されている。

寺内 玲
（てらうち・れい）

2020年環境情報学部卒業。
デザイン事務所 studio TRUE 代表。



紙から

作る

鳴川 肇

地球システム設計論
デザイン観察基礎

建築やデザインの世界でもデジタル化が進み、紙を利用する機会が減っている。SFCでは特にデジタルデザインの研究が進められてきた一方で、紙を使って学ぶデザインの授業がいくつか開講されている。コンピュータでは再現できない、紙を用いたデザインの手法や表現について鳴川肇先生にお話を伺った。

●ペーパークラフトで立体造形への理解を深める

「地球システム設計論」の授業で、教材としてペーパークラフトを用いているのはなぜですか。

「地球システム設計論」では、地球システムを考慮したデザインについて、その先駆者であるバックミンスター・フラウ（注1）の発明を例に挙げながら教えています。デザインを幾何学的側面から捉える授業ですが、理論よりは実践の角度から学んでもらうために、ペーパークラフトを用意しました。学生は、この授業オリジナルのペーパークラフトを組み立て

て、出来上がった模型を触りながら立体的に学ぶことができます。

例えば、正四面体と正八面体による空間充填（注2）について、解説を読んでも写真を見てもピンとこない人も多くいます。しかし、正四面体（黄緑色）と正八面体（オレンジ色）を一つ一つ作って、それを手に取って積み木のように組み合わせてゆくと、誰でも直感的に理解することが出来ます（写真①）。

他にも、フラウが開発したダイマクシオン地図（注3）を学ぶ時には、球体から地図に投影する際に用いられた正二十面体の模型を使って解説しています（写真②）。

ペーパークラフトがあれば、正二十面体の辺の長さの計算を分かりやすく説明することが出来ます。

授業で教える時の他に、ペーパークラフトが役に立つことはありますか。

貼り合わせる辺と辺がぴたっと合う感覚が得られるのがペーパークラフトの良さです。言い換えれば、設計が間違っている時には、展開図から立体の造形物を組み立てても、上述の「ぴたっと」した感覚が得られず間違いに気付くわけです。

僕が大学院生だった一九九七年頃から、パソコンが普及し、建築系の学生たちも3D造形ソフトを使うようになりました。便利な一方で、コンピュータのディスプレイ上では三次元が認識しづらいという課題があります。例えば、実際には図形同士がぴったりと合っていないのに、画面上では誤認してしまうことがあります。それは技術が発展した三十年後の現在でも変わらない問題です。そのため、コンピュータ上の設計が正しいかを確認する目的で、ペーパークラフトを作ることもあります。ペーパークラフトを作ることで、平面と立体を行き来しながら設計でき

巻末付録「オーサグラフ世界地図」は38ページ！

ます。そうすることで、完成形だけでなく、製造工程なども検証しやすくなります。それは、なんでも三次元出力してくれる3Dプリンタでは難しい検証方法です。

●テクスチャがもたらす平面表現の深み

他の授業では、紙はどのような用いられていますか。

遠近法に基づいたデザインの基礎を扱う「デザイン観察基礎」の授業では、紙によって描かれ方が変わることについても教えています。

絵画は二次元の表現だと思われるがちですが、実際には、もう一つの次元があります。紙自体のテクスチャです。紙にはそれぞれ特有

のテクスチャ、つまり描き味があり、それぞれの描き味を活かした絵の表現が存在します。

授業では学生がクロッキー帳にデザインをします（写真③）。クロッキー帳に用いられるのはスケッチブックよりも薄い紙です。そして、クロッキー紙の中には、糸目と簀目と呼ばれる線が入っているものがあります。そのような紙に絵を描いて陰影を付けると、丁寧に描き込まなくても、細い線で均等に描かれているように見えることがあります。それは、均等に並ぶ糸目の溝に、鉛筆の黒鉛が付着しないからです。

紙の未来についてどのようにお考えですか。

日本は紙の文化が豊かな国です。例えば、襖や障子は、空間を紙で可変的に区画して、独特な空間を作り出します。扇子やうちわは、たった一枚の紙で涼しさをもたらし、さらに、風に匂いを付けることもできます。これら生活や季節と密接に関わる文化を消滅させてはいけなと思っています。

（構成：藤田叶子）

注1 バックミンスター・フラウ（一八九五―一九八三）…アメリカの発明家。「宇宙船地球号」「シナジー効果」という言葉と共に、地球システムのデザインを実践した。

注2 空間充填…空間を隙間なく図形で埋め尽くす操作のこと。

注3 ダイマクシオン地図…地球を投

鳴川 肇 （なるかわ・はじめ）

環境情報学部准教授。

専門は、建築、プロダクトデザイン、グラフィックデザイン、ファインアート、幾何学、透視図法、地図図法。

影した多面体の展開図で、フラウが発明した世界地図。鳴川先生が発明したオーサグラフ世界地図にも影響を与えた。

編集長とデザイナー兼副編集長の振り返り

吉松

もうすぐ発行ですね！ この機会に、2月に行った企画会議の議事録を見てみました。紙で雑誌を作り続けている団体として、「紙」に着目したいという話から始まりました。もう遠い昔のようです（笑）。本誌が創刊された頃は紙のメディアが当たり前でしたが、今はデジタル化が急速に進んでいる。だからこそ、「紙」をテーマにした雑誌を紙で残すことに意味があると考えました。

吉松

紙とデジタル化の関係についてもお話を伺い、一概にデジタルが紙よりも環境に優しく、便利なわけではないという気付きがありました。

デザインにもこだわり、表紙には、特別に厚盛りニスと型抜き（トムソン）の2種類の特殊な印刷加工を施しました。円の中に「SFC」の文字が見え、表紙をめくると、それが「紙」の文字の一部であることが分かります。SFCにおける紙の在り方というテーマを表すと共に、紙だからこそ可能な面白い表現を提示したいと考えました。また、1ページ目の「紙」のページでは、裏には反転した柄を印刷して、次のページだけれど同じ一枚の紙であるという紙の物質性を強調しました。

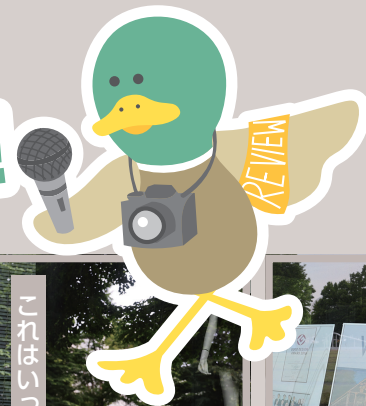
記事のデザインには、製版と印刷の確認に用いられる「カラーバー」と、裁断に用いられる「トンボ」と呼ばれる印を取り入れました。これらは原稿を確認する編集者なども度々目にするマークで、紙の出版を象徴するものとして本特集に取り入れるのにふさわしいと考えました。また、それぞれの記事のテーマカラーとして、CMY（シアン、マゼンタ、イエロー）のインクから2色選んで、合計値が（80号にちなんで）80%になる色を作りました。印刷物の色の作り方を身近に感じられるのではないのでしょうか。

巻末には、インタビュー記事に登場した折り紙とペーパークラフトを付録として収録しました。紙の冊子だからこそ可能な付録の形ですね。

吉松

本誌77号の特集「SFCの／と社会」でも、SFCの掲示物に関するルールや景観について先生方に議論していただきました。本企画でキャンパス内を歩き回ると、事務室が掲示したもの、事務室から許可された掲示物、ルールの隙間に入り込んだものなど、様々な形で紙が存在していることが分かりました。誰がどのような思いで、そこに紙を貼った・置いたのかという、紙の裏にあるストーリーに思いを馳せるきっかけになりました。

編集部が ドツゲキ!



SFCにおける紙の現在地を探るため、キャンパス内の探検を行った。実際に足を運び、目を凝らすことで、多くの場所に存在する紙の姿が浮かび上がった。

藤田

藤田

藤田

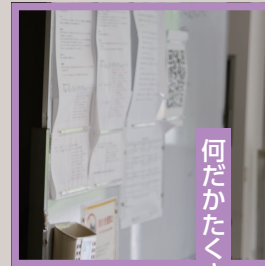
藤田

手すりに寝袋等をかけることは
禁止します。

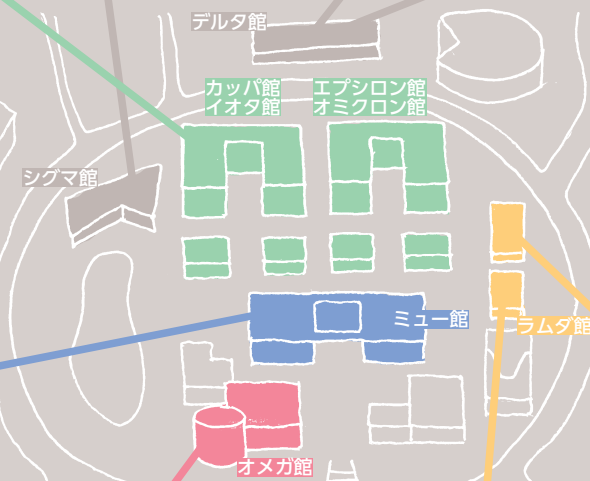
ルールがいっぱいあるようだ

ひとことカード

これはいったい何だろう



何だかたくさん貼ってあるぞ



ガンマ館
(体育館)

ラムダ館

ミュー館

オメガ館

シグマ館

デルタ館

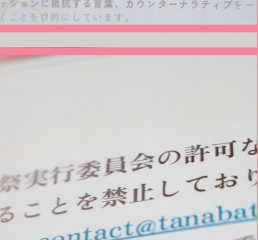
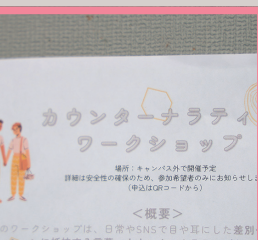
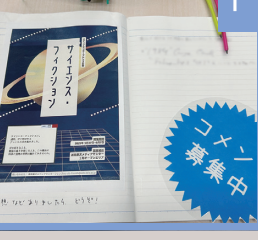
カッパ館

エプシロン館

イオタ館

オミクロン館

今年度のクールシェア
キャンペーンのポスター



オメガ館には学生団体の
告知がたくさん

中国語研究室

スペイン語研究室

フランス語研究室

マレー・インドネシア語
研究室

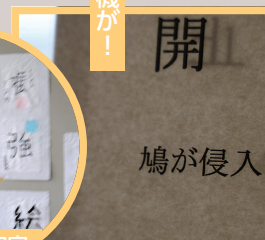
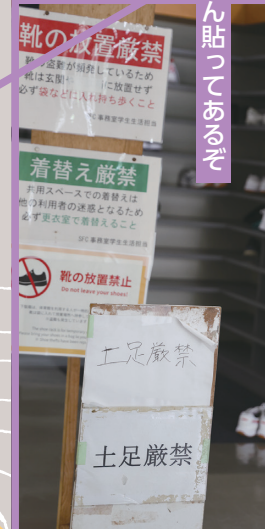
英語研究室

日本語研究室

ドイツ語研究室

アラビア語研究室

朝鮮語研究室



こんな所に印刷機が！

開

鳩が侵入し

スペシャリストとして教壇に立つSFCの先生方。普段は見えない日常のルーティンやこだわりののぞき見たい。第二回は森さち子先生に、毎日眠る前の習慣について語っていただいた。

ひとを想う、ことを想う

——普段の生活の中で、意識的にやっている習慣やこだわりはありますか。

夜眠る前にベッドに腰を掛けて両手を組んで「お祈り」をする習慣があります。



慣がずっとあります。足を床に下ろす時であれば、ヘッドボードにもたれて、足をベッドの上で伸ばす時もあります。ヨーロッパの昔の子どもたちが、お祈りして眠りなさいと言われている時のような格好ですね。

特定の宗教の儀礼に則って「お祈り」しているわけではありません。夜、静かにそうしていると、いろいろなことが浮かんできると、その日に起こったこと、あるいは最近起こったことや昔のこと、いろいろな人のことを想い出したり、日常の自身の振る舞いを振り返ることもあります。そうしているうちにいつの間にか、自分

が知る由もない世界に向かって、何かを想う時間にもなっていきました。様々な人の存在を感じながら、その空間にしばらく身を置いてみると、心が落ち着いてくるのです。

幼少期の体験

——祈るといふ習慣を始めたきっかけは何ですか。

祈りという行為を最初に知ったのは、幼い頃に姉の友だちの影響でプロテスタント教会の日曜礼拝に足を運んだ時でした。その後、自ら始めたのは、格好はお祈り風ですけれど、実際には心を自由に漂わせるといふようなものですね。瞑想に近いかもしれませんが。ですから、「（かきかっこ）に入れて、「お祈り」としたいと思えます。寝る前に、私なりの「お祈り」をするようになったのは、九



歳の時に祖母が亡くなり、その数日後にその祖母が夢に現れたのがきっかけだったと思います。小学校三、四年生は、発達心理学的には比較的心が安定している時期と言われています。疾風怒濤の思春期とは違うし、物事が良く分からない無邪気な子ども時代とも違う、ちょうどその狭間にある時期です。そんな時に祖母が他界し、初めて身近な人の死に出会って、自分で自分の心をどうおさめたら

いいか分からなかったのだと思います。どんなふうに祖母の死を受け入れたらいいのか、異界をどのように理解したらいいのか。様々に湧き上がってくる感情をおさめるために、自発的に始めたのでしよう。子ども心に、それによって穏やかな気持ちに戻ってくるのを感じたのだと思います。中・高時代、ミッション系の学校だったことも少しは影響があるのでしよう。それから毎日欠かさず行っているの、半世紀を超えて続けていることになりました。

祈りと愛着

——森先生にとって、祈るという習慣はどのような存在なのでしょう。か。

皆さんも、小さい頃にぬいぐるみと一緒に寝たり、お人形を連れ

て歩いたことや、大人になってもちょっと心細い時に大事なお守りを持って行ったりすることがありますよね。私にとっての「お祈り」は、そのようなお守り的なものの、愛着対象の代替に、いつの間になつていったのだと思います。

ぬいぐるみのような存在は、精神分析的には、自分の心と外の世界との関わりの中にある「移行対象」と言われています。私たちは、常にお母さん（依存対象）のそばにはいられません。不安を感じた時に、母親に代わる存在を感じることで、不安が軽減されることがあります。祖母が亡くなって、心細くなった時に私はきっと、母親のそばにずっといたかったのだでしょう。ですが、他にきょうだいまいたので、独り占めできない母親の代わりとして、自分で自分を慰めるために、私には「お祈り」

が必要だったのでしようね。

日常から離れてみる

実は、「お祈り」を始める前の七、八歳の頃から、日記を書くことも始めていました。子どもの頃は毎日書いていましたが、今はその習慣はなくなっていました。確か、思春期を卒業する頃、日記を書かなくなっていたように思います。日記は「書く」という行為です。一方、私のする「お祈り」は頭を使う作業ではないのです。空想しているというか、心の中に浮かんでくることを、そのまま心に映し出します。瞑想のように無心になるのでもなく、ふわっと心を解き放つような感じです。日常に埋もれない時間と呼ぶこともできるかもしれませんが。私にとって「お



森 さち子
(もり・さちこ)

総合政策学部教授。
専門は、臨床心理学、
精神分析的心理学。

(構成：岡田奈和実)

「祈り」の時間は、目の前の現実的なことから少し離れて、自分の心を解放したり、時には自身を俯瞰する時間になっているのだと思います。



川口 航史

KAWAGUCHI HIROFUMI

総合政策学部准教授

speciality

政治学 / 政治過程論 /
日本政治

趣味 テレビ・動画を見ること、ラジオ・音楽を聴くこと、読書。

学生時代の思い出 多くの思い出がありますが、友人とアメリカのカリフォルニアやヴァージニアをドライブしたことでしょうか。それまで見たことがない地形や風景が印象的で、記憶に残っています。



北川 敬三

KITAGAWA KEIZO

総合政策学部教授（有期）

speciality

軍事・安全保障 / 戦略論 /
軍事史 / リーダーシップ

趣味 鉄道、読書、学術研究。

学生時代の思い出 学生時代、何かをやり遂げることは、その後の人生の拠所になります。私は、米国海軍兵学校4年間の学生生活で、志と人間力を磨きました。特に、4年生の時にヨットの艇長として、大西洋一カ月の航海を完遂した体験は、リーダーシップの原点になっています。



清水 達郎

SHIMIZU TATSURO

総合政策学部専任講師

speciality

数学（位相幾何学）

趣味 数学、鉄道。列車の中で数学をするのが好きです。

学生時代の思い出 2回生のとき、背伸びをしてGalois理論という数学の講義に出ました。講義は分からないことだらけでしたが、とにかく面白く、講義外の時間もずっとGalois理論に取り組んでいました。結果として留年寸前に追い込まれたのですが、とても充実した半年間でした。



福島 康仁

FUKUSHIMA YASUHIITO

総合政策学部准教授

speciality

宇宙政策 / 宇宙安全保障

趣味 『カーネーション』の再放送を見てから朝ドラにハマっています。

学生時代の思い出 SFCでは毎日メディアセンターで新聞や雑誌、本を読んでいたことが記憶に残っています。また、学部の4年間住んでいた日吉寄宿舍での生活も強く印象に残っています。「ひょうら」の飲食店のことが思い出されます。



海野 敦史

UMINO ATSUSHI

環境情報学部教授（有期）

speciality

情報通信法 / 憲法 / 行政法

趣味 国内外の旅行が趣味です。世界150カ国近くを訪れました。

学生時代の思い出 神戸からの2泊3日の船旅を経て初めて訪れた外国となる中国で、内陸部含めた各地をバックパッカー一つで40日間程度「放浪」し、現地の多様な景観や文化に触れたことは、刺激的で懐かしい思い出の一つです。

新任 教員プロフィール

2025年4月にSFCに着任された教員の方々を対象にアンケートを実施し、趣味と学生時代の思い出についてご回答いただいた。教員の本務となる所属学部・所属研究科ごとに五十音順に掲載。本誌特別号第75号『THE BRAIN：湘南藤沢キャンパス教員プロフィール』（2023年10月発行）と本連載とを併せて、授業や研究会を調べる足掛かりにしてほしい。



三浦 桃子

MIURA MOMOKO

看護医療学部助教（有期）

speciality

基礎看護学

趣味 華道（一花創流）。

学生時代の思い出 医学部馬術部に入っていたので自馬や仲間と一緒に練習したことです。健康のためにも今も乗馬を続けていて、馬に優しく乗れるようになることが目標です。



緑川 綾

MIDORIKAWA AYA

看護医療学部助教（有期）

speciality

精神看護学

趣味 電車の旅。車窓から四季やその土地の暮らしを感じる旅。

学生時代の思い出 学生時代は山梨県で、毎朝富士山を見上げ、葡萄畑の間を猛スピードの自転車で駆け抜け、通学、バイト、病院実習に向かう日々。冬はスキー三昧でしたが、いつも友達と集い、助け合い励まし合って過ごしました。その関係性は今もお発展中。



三原 郁奈

MIHARA FUMINA

看護医療学部助教（有期）

speciality

母性看護学 / 助産学

趣味 娘と一緒に『それいけ！アンパンマン』や『おかあさんといっしょ』を鑑賞。

学生時代の思い出 看護医療学部の授業にしっかりと時間を費やししながら、サークル活動や遊びも謳歌しました。学生生活最後の春休みは、卒業旅行をいくつも計画し、全力で思い出を作りました。



原藤 健吾

HARATO KENGO

スポーツ医学研究センター准教授
健康マネジメント研究科委員

speciality

膝関節外科 /
スポーツ医学 /
バイオメカニクス

趣味 ドクターとして関わっているチームのスポーツ観戦。

学生時代の思い出 慶應義塾大学医学部体育会サッカー部に所属しており、大学2年生の時に公式戦16勝1分で、関東医歯薬獣リーグ1部優勝と東医体・全医体（東日本・全日本医科学生体育大会）を優勝できたことが一番の思い出です。幹部学年の時は主将を務めました。

趣味 ライブ・スポーツ観戦、お酒、楽しそうなこと募集中！

学生時代の思い出 大学院生時代、研究留学でスウェーデンのウプサラに滞在し、文化の違いに驚きながらも、仲間とお酒を飲んだり、シュールストレミングを食べたりしたことは、良い思い出として心に残っています。この頃の経験が、今の自分を形作っていると感じます。

趣味 パツと思いつきませんが、仕事が趣味と重複している部分があるように思います。

学生時代の思い出 田舎の大学で周りに何も無く、誰かの家に集まってただただダラダラして、どうでもいいような話をしていたことが、今となっては懐かしい思い出です。

趣味 妻と一緒に週末おいしいものを探して街を歩くのが好きです。

学生時代の思い出 うちはゼミがなかったので「無いなら自分たちで作ってやる！」と先輩後輩同期と発表会を企画したり軽井沢や箱根に旅行に行ったりしてました。「どんどん盛り上げられ！」と楽しんでいたら、いつしか「言語情報のお祭り男」と呼ばれるようになりました。

趣味 キャンプ、散歩。

学生時代の思い出 大学4年時に本塾医学部女子バスケットボール部が復活され、幹部メンバーとして再結成に向けて活動し、大会でも結果を残すことができました！学部の友人と授業後に校舎のテラスでおしゃべりしたことも良い思い出です！

趣味 映画鑑賞。

学生時代の思い出 テストや実習を共に乗り越えた仲間と行った、たくさんの旅行です。中でも、東京から四国までキャンピングカーで行き、四国を一周して帰ってきた旅行はとても思い出に残っています。初めてのキャンピングカー旅行、ハブニングもありましたが、それも含めていい思い出です。仲間のおかげで楽しい学生生活を送ることができました！

堺 正太郎

SAKAI SHOTARO

環境情報学部専任講師
（有期・テニユアトラック）

speciality

惑星電磁圏物理学 /
惑星科学 /
超高層大気物理学



林 公輔

HAYASHI KOSUKE

環境情報学部教授

speciality

精神医学 / 分析心理学（ユング心理学） /
集団精神療法



山田 彬堯

YAMADA AKITAKA

環境情報学部准教授

speciality

理論言語学 / コーパス言語学 / デジタル
ヒューマニティーズ / 言語統計学 / ベイズ統計学 / 敬語 / 発話行為 / 言語変異 / 言語変化



上山 昌

UEYAMA AKI

看護医療学部助教（有期）

speciality

がん看護学



船戸 真衣

FUNATO MAI

看護医療学部助教（有期）

speciality

がん看護学



When I was young

学生にとって、教員はどこか遠い存在である。

しかし、そんな教員にも学生だった時代がある。一体どのような学生生活を送り、

それは、その後の人生にどのような影響を与えたのだろうか。

今回は、看護医療学部准教授の宮川祥子先生に、ヘルスケア情報学の道へ進むことになったきっかけや、学生時代の研究活動についてお話を伺った。



学部4年生の頃の数学基礎論ゼミで（左手前）

宮川祥子

——まずご自身の生い立ちを教えてください。

育ったのは鎌倉市です。鎌倉といっても、ニュータウンと呼ばれるようなところで、同世代の子どもがたくさんいる環境でした。地域の繋がりが強い所で、小さい頃は、毎日近所の子たちと遊んでいました。幼少期から本が好きで、物語よりは自動車や人体の仕組みの本など、科学



アイスを食べる幼少期の宮川先生（左）

絵本が好きでしたね。その時から、ものの仕組みや工学的なことに興味があったのでしょうか。仕組みを知りたいという衝動は小さい頃からあったと思います。中高の頃も、授業中でも休み時間でも構わず読書をしていて、チャイムが鳴ったことにも気が付かないほどでした。一カ月に十冊から二十冊は読んでいたと思います。その頃は小説やノンフィクション、講談社のブルーバックスも読んでいました。特にSFにはまっていて、アイザック・アシモフやアーサー・C・クラークなどのSFの古典を読み漁っていました。小さい頃からアニメもたくさん観ていて、『銀河鉄道999』や『宇宙戦艦ヤマト』、何と言っても『ファーストガンダム』（『機動戦士ガンダム』をリアルタイムで視聴していた世代です。幼いなりに、アニメから教訓を得ていました。

——大学生の頃の思い出は何ですか。

高校時代に、作家の小松左京さんと出会いました。SFのファンイベントの繋がりで偶然お会いすることができ、大学時代は先生の事務所でアルバイトをしていました。小松先生はSF小説の『日本沈没』を書くために、日本の体積、フォッサマグナ、プレートテクトニクス理論など、当時の最先端の知識もご自身で調べていくなど、知識欲の塊のような方でした。アカデミアのネットワークも持つていらっちゃって、折りにつけ様々な分野の研究者と楽しそうに話をしていらっちゃいました。その姿が、私にはとてもチャーミングに見える、知的なものの面白さや魅力、またその知識によって作られる人間性を知りました。

もう一人、良い出会いをした方が

います。それは金子郁容先生（元政策・メディア研究科教授）です。金子先生は、SF Cに着任する前、一橋大学に在学していて、実は先生のゼミに所属していたのです。当時金子先生のゼミの案内には、「ポーターを超えたい人はいいで」と書いてあり、それに惹かれて先生のゼミの門を叩いたわけです。金子先生のバックグラウンドは応用数学で、ゼミでも数学に関わることを扱っていましたが、数学的な考え方が社会を理解するためには非常に大切だと先生は考えていらっちゃって、そのようなものの見方は今でも私の中に根付いています。また、ゼミの課題で哲学書から情報社会論、日本文化まで様々な本を読み切ったことで、自信が付きしました。



——その頃に思い描いていた将来の理想像はありましたか。

はっきりとしたものは持っていませんでした。就活をして、内定も貰っていた大学四年生の時に、金子先生から、大学院に来て自分のコアになるものを作ってみたら、というようなことを言われました。青天の霹靂でしたが、がつつりチャレンジするのも良いのではないかと思い、一橋

テーマの話が飛び込んできます。それを一つ一つ受け止めているうちに、気が付いたら今の形に落ち着きました。ファブに関しては、総合政策学部、環境情報学部の影響を強く受けていて、3Dプリンタを導入した田中浩也先生（環境情報学部教授）に声を掛け、ケアのものづくりの共同プロジェクトを始めました。そうやってファブに分野を広げたおかげで、ロボットの研究者との繋がりができて、東京工業大学（現・東京科学大学）と共同で排泄ケアのトレーニングシミュレータを作りました。

——大学生の時の出会いから始まり、偶然のきっかけを掴み取ったり、新たな出会いを大切にしたりしながら、今ここにたどり着いたんですね。これまでの道のりを振り返って、先ご自身が意識していらっしゃることとありますか。

大学の修士課程に進むことにしました。その後、慶應義塾大学の政策・

メディア研究科博士課程に進学するのですが、ちょうどその頃、金子先生が阪神淡路大震災の支援として始めた「インターVネット」というプロジェクトに加わりました。その中で、これからインターネット上のデータを上手に活用していくための方法が求められるのではないかと気付いたんです。そこでSFCでは村井純先生（現慶應義塾大学教授）の研究会に入り、情報検索に関する研究を行いました。博士論文では、情報の信頼性を担保するために、信頼できるキュレーターが集めた情報が優先的に表示されるシステムがあれば良いと考え、そのようなメタデータが流通するインターネットの在り方を研究しました。今で言うYahoo!ニュースのコメント機能や、Xのコミュニティノートと近い

私は、ある分野と別の分野の「隙間」にすることがとても面白いと思います。間にいるというのは、関節やジョイントのように何かと何かを繋いで、新しくできた脈絡を編集する立ち位置にいるということです。「防災と情報」「看護とIT」のように。常にとどの分野の専門でもなく宙ぶらりんな状態なので、自分だけでは何も生み出せませんが、何かと何か、誰かと誰かを繋ぐことで新しい価値を作ることができます。

——今の学生に対して伝えたいことはありますか。

今の若い人たちは、体当たりしていくことを恐れているようにも感じます。波風を立てないように、当たり障りのないコミュニケーションを繰り返して、苦手だと思ったらフェードアウトするという付き合い

ものです。

——かなり先進的な研究だったのですね。研究者への道を進む中で、テキサス大学に行かれたとのことですが、留学をされたのでしょうか。

いえ、留学はしてなくて、テキサス大学の先生が日本で集中講義を行うコースで二つ目の修士号を取りました。私がSFCで博士課程を修める頃、ちょうど看護医療学部が創設され、そこでITの授業を担当することになりました。が、私は当時健康科学や看護学に関する何を知らなかったのです。そこで、これまで自分が研究してきたことに関係のある医療情報学を勉強することになりました。学べる場所を探していた時に、テキサス大学のコースが日本で開催されるという情報を耳にして飛びついたわけです。テキサス大

方が普通になっているのかもしれない。私たちの世代では、あの人のことが気に入らないと思ったら、ドカンとぶつかっていきました。もちろん空気なんて読みません。果たしてそれがよいのかは分からないけれどね。でも、ぶつかっていくことによって相手を理解できるようになるのは確かです。自分だけでは気付けない、相手なりの論理や価値観があるのだということが分かるのです。

相手に近づいていくためには、まず自分に自信を持つことが必要です。自信というのは、必ずしも強いということだけではなくて、ぶつかっちゃっても大丈夫、ちょっと傷ついててもきつと回復する、というふうに、弱い自分を認めてあげることでもあります。自分のことを信じて、相手のことも信じる気持ちを持ってください。また、そうして構築された人と人の強い繋がりを、ぜひ大事

学の修士論文では、食事や運動に関

する情報をSNS上で相互にシェアすることを通じて、チームで生活習慣改善を行う取り組みについて書きました。村井先生の研究会で執筆した博士論文も、インターネット上のコミュニティの文脈を活用した情報評価に関する内容でした。そう考えると、私はインターネット上の人々の活動にとっても関心を持っているということでしょうね。

——宮川先生は今、看護医療学部で情報リテラシーの必修授業を持っておられて、ゼミではロボットやファブ（デジタルファブリケーション）を活用した研究をされていますね。

看護医療学部で、ITを専門とする教員は私一人だけです。健康情報学やヘルスケアエンジニアリングの分野は人が少ないので、いろいろな

にしてほしいですね。

（構成・井庭晴香）



宮川 祥子
（みやがわ・しょうこ）

看護医療学部准教授。
専門は、ヘルスケア情報学、防災情報学。

特集 紙
巻末付録

編集後記

今年度もKEIO SFC REVIEW編集部は新歓活動を行い、新しいメンバーを迎えました。春の新入生言語ガイダンスで本誌を配布したり、学内には新メンバー募集のポスターを掲示したり。振り返ると、私たちは本誌の制作以外にも、紙を使うことが多いと感じます。やはり紙が好きなメンバーが多いからでしょうか。SNSでの発信に比べるとスピードは格段に遅くなりますが、「届いたんだな」と実感する瞬間があります。カバンの中に眠っていた紙が、ふとしたきっかけで人と人を繋ぐかもしれません。

忙しい学生生活の中で、いつもそっとそこにある紙は、「急がなくてもいいよ」と語りかけているように思います。メディアセンターで本を借りて満足し、結局読めずに返してしまうのも、そんな安心感ゆえかもしれません。

今号では、「のぞき見ルーティン」と「新任教員プロフィール」が2回目の掲載となります。連載として続けられたことを嬉しく思います。これからもこれらの連載が続いてほしいと願うと同時に、どんどん変化してほしいと期待してまいります。今後のKEIO SFC REVIEW、そしてSFCがどのような姿になっていくのか、考えさせられる号になったと感じています。

最後になりますが、取材やご寄稿に協力してくださった方々に感謝申し上げます。お忙しい中、本当にありがとうございました。

これからもKEIO SFC REVIEWを、どうぞよろしく願いいたします。

2025年7月1日 吉松 野乃子

慶應SFC学会

発行人 黒田 裕樹（会長 / 環境情報学部教授）
担当理事 宮代 康丈（総合政策学部准教授）
事務局 田坂 真美

編集長 吉松 野乃子（総合政策学部 3 年）

副編集長 藤田 叶子（総合政策学部 4 年）
岡田 奈和実（総合政策学部 2 年）

編集委員 東 史華（総合政策学部 4 年）
平野 瑠理（総合政策学部 3 年）
福原 衣織（総合政策学部 3 年）
井庭 晴香（環境情報学部 3 年）
藤井 美来（環境情報学部 3 年）
野畑 六花（環境情報学部 2 年）
高坂 真優佳（総合政策学部 1 年）
服部 琴夏（総合政策学部 1 年）

表紙 / 誌面デザイン

藤田 叶子（総合政策学部 4 年）

「のぞき見ルーティン」デザイン

野畑 六花（環境情報学部 2 年）

発行日 2025 年 7 月 22 日
発行所 慶應SFC学会
〒 252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 5322
0466-49-3437
<http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/>
keio-sfc-review@sfc.keio.ac.jp

無断転載・複製を禁じます。ご相談は慶應SFC学会までお寄せください。



こちら (<https://gakkai.sfc.keio.ac.jp/review/jp/>) から
一部のバックナンバーをご覧いただけます。

吉村パターン from「紙を折る」

吉村パターンとは？

吉村パターン(ダイヤモンド・パターン) は、円筒をつぶした時に現れるパターンと同じ構造を持つ。規則的なパターンが繰り返されるため、自由に大きさやパターンの比率を変えることが可能。この構造について研究した吉村慶丸氏の名前にちなんで、吉村パターンと呼ばれる。

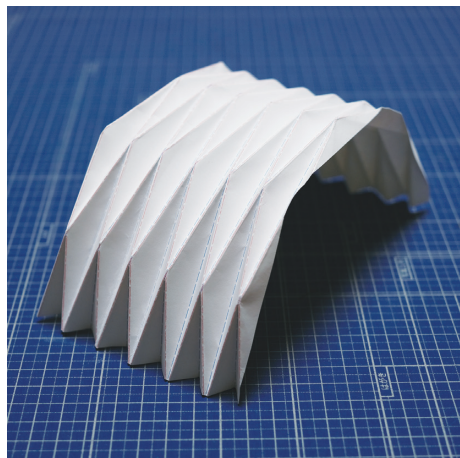
37



作り方

所要時間……15 分

- ① 切り線に沿って、紙を切り離す。
- ② 山折り線と谷折り線に沿って、折り目を付ける。
- ③ 折り目を意識しながら、紙を折りたたむ。
- ④ 完成！ アーチ状の構造が出来上がります。

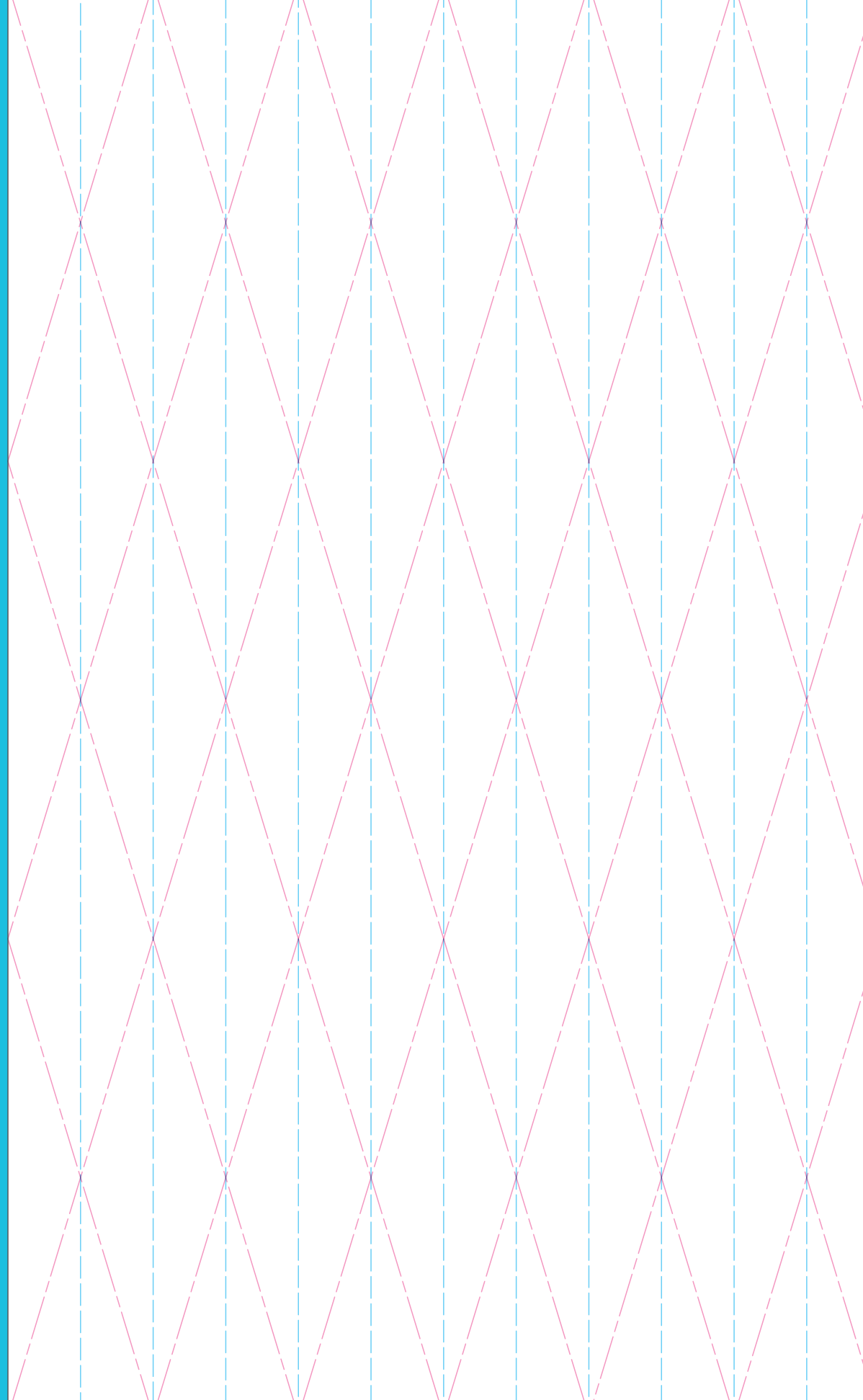


この吉村パターンを折って、
薄くてもろい紙でも、折り目
を加えると丈夫なアーチ構造
を作れることを体感してみま
しょう！



三谷純先生
(環境情報学部特別招聘教授)

記事は本号 6 ページ！



オーサグラフ世界地図 from「紙から作る」

オーサグラフ世界地図とは？

鳴川先生が発明した世界地図。地球の球面が96分割され、それらの面積比を保ちながら正四面体に描き写されている。全ての海、陸の面積比がほぼ正確で、その上で形の歪みも低減されており、北極、南極付近の見やすさも両立している。

—— 切り線 Cutting line ——
—— 山折り線 Mountain folding line ——

作り方

所要時間……8分

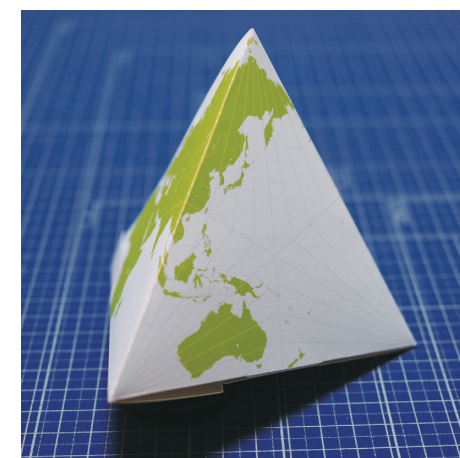
- ① 切り線に沿って、紙を切り離す。数字の上の切り込み部分にはカッターがおすすめ。
- ② 山折り線に沿って、折り目を付ける。
- ③ 数字1～4の順番で、タブを切り込み部分に差し込む。
- ④ 完成！ オーサグラフ世界地図が正四面体の展開図であることが分かります。



鳴川肇先生
(環境情報学部准教授)

このペーパークラフトを作ると、球体である地球が正四面体に投影されているというオーサグラフの仕組みが直感的に分かるはずです！

記事は本号 20 ページ！



「地球システム設計論」の教材であるペーパークラフト (A3 サイズ) はこちら (<https://narukawa-lab.jp/archives/#tesd2015>) からダウンロードできます。ぜひ挑戦してみてください。普通紙に印刷する場合は、ケント紙などの厚い紙に貼り付けてから作ると、きれいに仕上げるができます。

